

わかば会誌

第13号

2020.1

巻頭言

叙勲を受けて

河北都市医師会 紺谷 一浩



令和元年春、旭日双光章を戴きました。平成30年同じ都市医師会の山崎軍治先生が受章されており、2年連続受賞は河北都市医師会として極めて名誉ある出来事であったと思っています。

この叙勲は私の医師会活動によるものであることから簡単に今までの私のことを述べたいと思います。

私は金沢泉丘高校をでて金大医学部へはいり、昭和46年卒業時学園紛争でのストライキ闘争で卒業が半年遅れています。あの頃はいと違って政治闘争が過激でした。革マルや民青など政治グループが跋扈して、私自身ノンポリに属してなんとなくふらふら生活していましたが、ストライキが続きあつというまに混乱にはいりこんでいました。その混乱の中で法医学井上教授の卒業試験をめぐり、我々の卒業は3回に分かれてしまいました。いろいろありましたが、今は昔で私の中には懐かしい思い出として残っています。卒業時第1内科はそんな人をやさしくむかえてくれるといわれ入局したような気がします。第1内科では杉本恒明助教授（当時）の下で循環器学を専門にして勉強しました。その後、金沢市立病院へ移りました。古い建物で桜に囲まれテニスコートがあり、私はまことに優雅に暮らしていました。そのうち昭和61年突然父親が心筋梗塞で倒れ、私が木津で開業しました。その後、平成2年河北郡医師会の理事になり、平成10年医師会副会長に、平成16年会長に推薦されました。会長を続けるうち、石川県医師会代議員会議長に推薦されました。あしかけほぼ20数年間医師会活動を行いました。その間、石川県医師会会長は梅田俊彦先生、小森

貴先生、近藤邦夫先生と3代にわたり、いろいろとお世話になった次第です。

都市医師会長の仕事として一番の思い出は平成21年のインフルエンザに対する輪番制夜間救急診療所の開設でした。インフルエンザ患者の急増に対して、河北都市医師会は社会的にどのように貢献できるのかと、その頃廻りから問いかけられていました。いろいろな会合でも保健所伊川所長、医科大飯塚病院長などとも話しをし、無い知恵を振り絞っていました。インフルエンザの爆発的な流行をみた沖縄では、すべての診療所で必要な時には県の要望で診療時間を延長して対応して、混乱をある程度回避したというレポートを読みました。その報告をもとに臨時理事会を重ね、河北都市医師会全員一致で輪番制夜間診療所の開設に石川県で最初に踏み切りました。インフルエンザ患者の急増にビタリと一致して、その開設は大成功に終わりました。この時なんとなく都市医師会会長の役割、意義を感じたような気がしました。

いろいろと医師会関係の仕事を終えた後叙勲され、たくさんの方々からお祝いの言葉をいただきました。私自身お祝いの会を辞退していたのですが、由雄会長、沖野副会長の勧めで、9月7日辻家庭園での河北都市医師会わかば会で、私の叙勲のお祝をさせていただきました。また記念品として、かほく市在住の間苧谷喜孝氏のパステル画をいただきました。県医師会安田会長も出席していただき、素晴らしい会となりましたことをここに深く感謝する次第でございます。ありがとうございました。

紺谷一浩先生の叙勲祝賀会によせて

河北郡市医師会 会長 由雄 裕之

令和元年9月7日辻家庭園にて、紺谷一浩先生の旭日双光章の受章を祝う会をわかば会と同時に企画しましたところ、50名近くの方々に参加いただきました。石川県医師会から安田会長にもご臨席いただきました。まことにありがとうございました。

紺谷先生は金沢泉丘高校、金沢大学医学部を優秀な成績でご卒業され、昭和46年、金沢大学医学部第一内科に入局されました。関連病院で循環器内科医としてご研鑽ののち、昭和61年、地元かほく市にて紺谷医院を継承開業されました。

平成16年から6年間、河北郡市医師会会長を勤められました。会長職在職中はその穏やかな口調と思慮深いまなざしで、当医師会の発展に大きく貢献されました。石川県医師会代議員議長、日本医師会代議員のご要職にも就かれました。平成21年に新型インフルエンザが大流行した際には、輪番制で平日の診療時間を延長する夜間診療の実施に尽力されました。このような夜間診療を行ったのは県内では当医師会が唯一でした。

今回それらのご功績が認められ、令和の始まりの年に受章されますが、山崎軍治先生が平成締めくくりの一昨年に同じく叙勲されておられますので、当



医師会から2年連続の受章となりました。我々にとってさらに誇らしく喜ばしいことと思います。

祝賀会では安田県医師会会長、北谷前会長、山崎元会長よりご祝辞をいただきました。またご子息の浩一郎先生が、親であり同じ職の師でもある父、紺谷先生への熱い感謝の思いを披露され、会場は感動に包まれました。涙する方もおられたようです。当会からの記念品として地元かほく市在住の画家、間亭谷（まおたに）喜孝氏のパステル画「しだれ桜」が贈られました。にし茶屋街の芸妓さんが華やかに舞い、センスあふれる創作和食をおいしくいただき、沖野副会長の中締めまで祝賀会はなごやかに進行了ました。

紺谷先生がますますお元気で、診療にゴルフにご活躍されることを祈念して、ご報告とさせていただきます。



ごあいさつ

らいふクリニック 北田 欽也



はじめまして。かほく市のらいふクリニックに勤務しております、北田欽也と申します。2018年4月より河北郡市医師会に入会させていただきました。

内灘町で高校卒業まで過ごし、高校卒業後は京都で1年浪人をした後に、東京理科大学基礎工学部生物工学科に入学しました。その当時はバイオ分野に興味があり、父がらいふクリニックを開業した直後でしたが、医学の道に進みたいという希望はありませんでした。生物工学科だけに講義内容はヒト、動植物、微生物のすべてを含む生物学であり、医学部とは基礎の講義内容は解剖学がない以外はほぼ重複していました。理科の教員免許は取得可能でしたが、薬剤師の免許も（もちろん医師の免許も）取れないのは損だなと感じていました。1年次を北海道の長万部町で全寮生活を送り、2年次からは千葉県野田市のキャンパスで過ごしました。野田市には金沢のソウルフードとして定着している第7ギョーザの発祥起源でもあるホワイト餃子の本店があります。4年次の卒業テーマ論文は、植物組織培養法を用いて有用植物の培養組織からのアルカロイドの生産性の実験でしたが、このような基礎研究が医学・薬学の進歩の一部につながっているとは実感できていませんでした。半数以上が大学院に進学する学科でしたが、食料品や飲料の商品開発を希望して就職活動を行い、食品会社に就職しました。就職した会社では、まずは現場を知ってからとのことで、工場勤務をしていましたが、将来への不安、不満などがあり、また、弟、妹とも医学部には進学しなかったこともあり、人生設計を考え直して医師の道を志すことにし、2年で会社を退職しました。当初は、真面目に受験勉強をすれば18～19歳の自分に追いつけるだろうし、何とかなるだろうと楽観的に考えていました。予備校に通って半年ほど勉強して記憶も取り戻しつつありましたが、センター試験形式の模試で数学が試験時間60分では以前と

同じ点数を取るには間に合わず、70～80分必要になっており、圧倒的に処理能力が落ちていることに唖然としていました。逆に化学や生物では20～30分余り、一般入試での医学部合格は1～2年では無理かもと焦り出し、並行して学士試験も目指すことにしました。北里大学医学部が前年度から学士試験を開始していることを知り、都内から日帰りで受験できるので受験してみようと、出身大学の教授に依頼して推薦状など用意して対策本を読んだりして挑みました。合格枠は4～5人で倍率は30～40倍ほどでしたが、合格することができ、2年次から編入できました。医学部と北里大学病院での研修医2年間で神奈川県相模原市で過ごし、入局時に北里大学の医局（腎移植や透析医療を積極的に行っている泌尿器科を考えていました）にするか石川県に戻るか迷っていたのですが、金沢大学リウマチ膠原病内科の川野充弘先生より勧誘いただき、入局して石川県に戻ってくるようになりました。その後は、色々な病院を見たいと希望したこともあり、県内外の病院を1年毎に転々と勤務し（金沢社会保険病院→加賀市民病院→市立輪島病院→金沢大学附属病院→済生会金沢病院→高岡市民病院→JCHO金沢病院9か月→金沢大学附属病院3か月→小松市民病院と経て）、2018年4月より、院長である父のもとで勤務することとなりました。また、週1回ですが金沢医科大学病院の血液リウマチ膠原病科でリウマチ外来の外科も行っております。

このような自己紹介の機会をいただき、地域医療に貢献できるよう日々精進することを心掛けていこうと再認識しているところであります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

新米小児科医として

つねファミリークリニック 中村 常之



景色の良いここ白帆台で開業し一年が過ぎました。開業までの経緯は省きますが、大学人から開業医になっていく事への頭の転換がこれほど難しいことかと実感した一年でした。大学時代は科研費の獲得が私にとって一つの大きな仕事であると考えていたので、日々臨床の中にヒントを探していたように思います。特に川崎病診療は自分のライフワークであり、川崎病診断の副症状であるBCG接種の発赤腫脹からヒントを得た川崎病モデルマウスの研究、川崎病後の血管障害を超音波で診る研究などが自分の学位論文、後輩の学位論文につながり、科研費も自分では3回、私が指導した後輩科研1回を獲得することができました。尚余談ですが、川崎病診断基準が久しぶりに新しくなり、大学最後の年に分担投稿したものが論文化され、これが大学人として最後の仕事になりました。: Revision of diagnostic guidelines for Kawasaki disease (6th revised edition)。

再び本題に戻ります。リサーチマインドは大学人にとって最も重要な事と思います。ただ、開業医になるとさまざまな症状を主訴に来院される患者さん達に自分のリサー

チマインドはどこかに吹き飛んでしまったようです。それどころか、押し寄せる多彩な症状の中で、こんなに自分は診ることが出来ないのか、開業当初は不安の塊のようになっていきました。それでも多くの患者さんが毎日訪れます。リサーチマインドを復活させる余裕は全くないですが、こまめに通って下さる方の所見が治療によって良くなっていき、子どもの笑顔が戻ってくるさまは今の自分にとってこの上ない喜びと毎日の生きがいになってきました。なんだ、この感覚は？これは小児科研修医の時初めて外来に出た時の気持ちと同じです。まさに今自分は新米小児科医なんです。この気持ちはこれからも大切に、このクリニックを続けていきたいです。

末筆ながら、自分を小児科の道に導いて下さった故館慶三先生、小児循環器に導いて下さった故永煥先生、小児科診療のいろはを教えて下さったまるおかクリニック院長丸岡達也先生に心から感謝申し上げます。

河北郡市医師会・羽咋郡市医師会



懇親ゴルフコンペ



河北郡市医師会・羽咋郡市医師会・金沢医科大学教授会懇親ゴルフコンペが10月27日に能登カントリークラブで開催されました。金沢医科大学からは今回、中橋先生、水田先生、安本先生らが初参加されました。コンペ参加者は電動カートのモニターに表示される全員のスコアをリアルタイムに見る事ができましたので、ホール毎に、皆さん一喜一憂してのゴルフだったのではないかと思います。ペスグロ争いでは中橋先生と久保先生がデッドヒートを繰り広げておられ、スコアがかけ離れている私は他人事として楽しませていただきました。最後は1打差で久保先生が逃げ切りました。そして、栄えある優勝は平場先生でした。

(文責 石倉)

河北郡市医師会の主な行事

(令和元年7月～令和元年の12月末まで)

1. 理事会・総会

令和元年 7月17日(水) 第4回理事会
令和元年 8月21日(水) 第5回理事会
令和元年 9月18日(水) 第6回理事会
令和元年 10月 3日(木) 石川県医師会との懇談会

令和元年 10月16日(水) 第7回理事会
令和元年 11月20日(水) 第8回理事会
令和元年 12月18日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

【河北郡市医師会学術講習会】

令和元年7月10日(水)
演題：「新しいガイドラインに見る心房細動診療の方向性」
講師：独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
副院長 阪上 学 先生

令和元年8月7日(水)
演題：「病態から考えるかゆみ対策」
講師：金沢医科大学 皮膚科学
准教授 西部 明子 先生

令和元年10月9日(水)
演題：「新しい高血圧治療ガイドラインJSH2019がめざすもの」
講師：久留米大学医療センター 循環器内科
教授 甲斐 久史 先生

令和元年11月13日(水)
演題：「骨粗鬆症診療における現状と課題
～顎骨壊死による感染症対策から
医科歯科連携を考える～」
講師：松本歯科大学歯学部 歯科放射線学講座
主任教授 田口 明 先生

令和元年12月11日(水)

演題：「心房細動診療～当院における取り組みをふまえて～」
講師：金沢医科大学 循環器内科学
講師 藤林 幸輔 先生

【「救急医療週間」研修会】

令和元年9月5日(木)
演題：「救急隊における救急医療・緩和医療
～ACPを踏まえて～」
講師：医療法人社団長尾医院
理事長 長尾 信 先生

【河北郡市医師会 産業医研修会・生涯教育研修会】

令和元年10月17日(木)
演題：「産業医職場巡視の実際」
講師：(株)小松製作所本社健康増進センター
栗津健康管理室長 南 昌秀 先生

3. 会員親睦会

令和元年 9月 7日(土) わかば会「辻家庭園」
令和元年 10月27日(日) 河北郡市医師会・羽咋郡市医師会・金沢医科大教授会・ゴルフ親睦会

編集後記

平成30年の山崎軍治先生に続き、令和元年には紺谷一浩先生が叙勲された事は河北郡市医師会にとつて2年連続で大変うれしい事でした。叙勲された紺谷先生からは自叙伝的な報告を戴き、由雄会長からは祝辞を戴きました。そして、中村常之先生からはリサーチマインドという耳の痛い言葉を戴きました。北田欽也先生のお話からはクリニック継承までの大変な苦労がひしひしと感じられました。さて、令和元年は強大な台風が次々に日本列島を襲い、甚大な被害を残していきましました。幸い、石川県では大きな被害を免れたのは何よりでした。令和2年は大きな自然災害が起きないことを祈ります。

会誌編集委員

石倉 直敬
紺井 一郎
沖野 惣一
藤田 拓也
木嶋 拓保
金原 拓郎